

無意味なものに意味がある 沈黙、同調とコミュニケーション

吉川左紀子

京都大学こころの未来研究センター

アウトライン

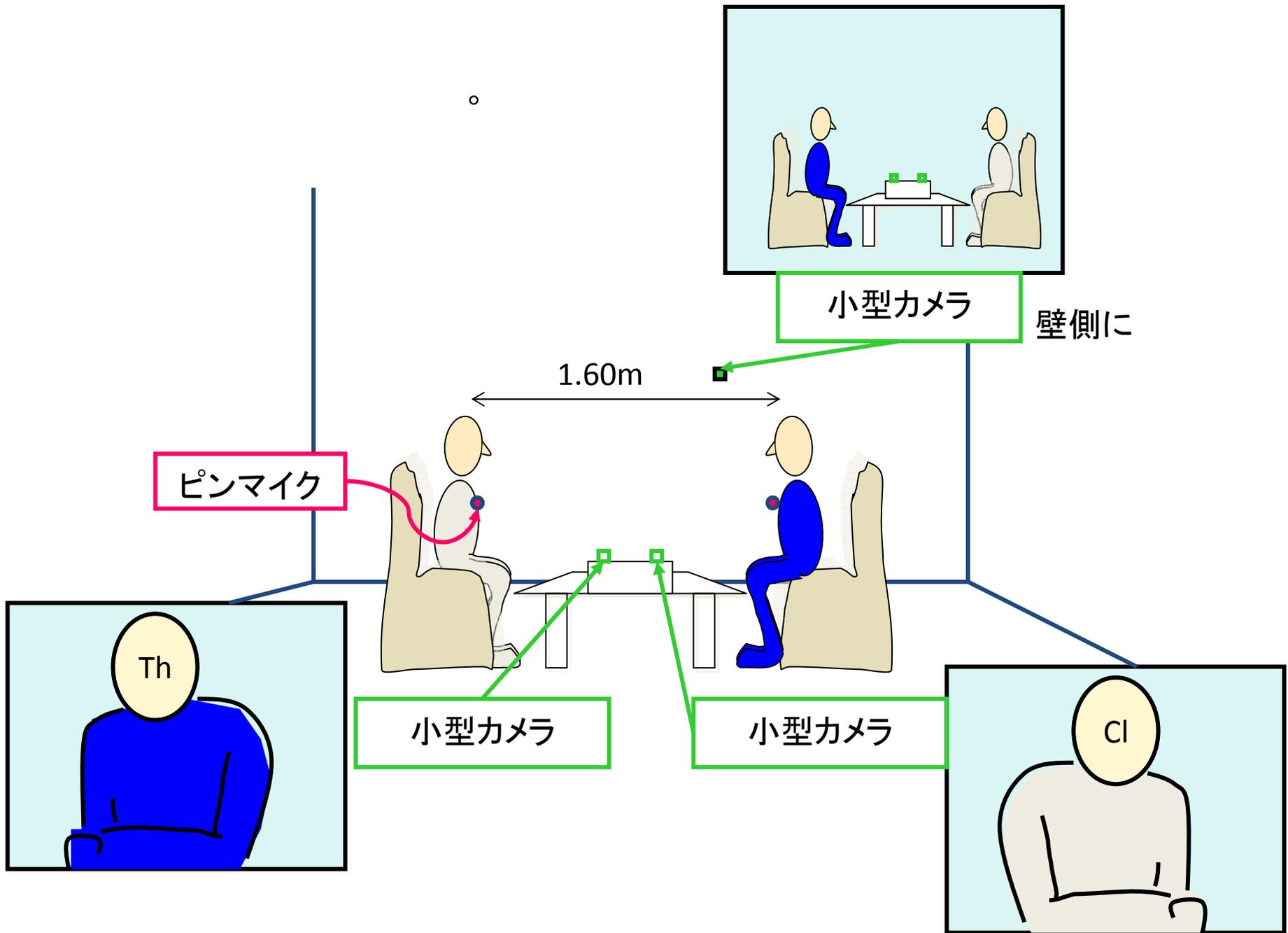
- こころの未来研究センターと「つなぐ」こころみ
- カウンセリング対話の実証研究
- 表情の同調とミラーシステム
- 作業療法における専門家の技法
- 改めて、コミュニケーションを考える

「つなぐ」こころみ

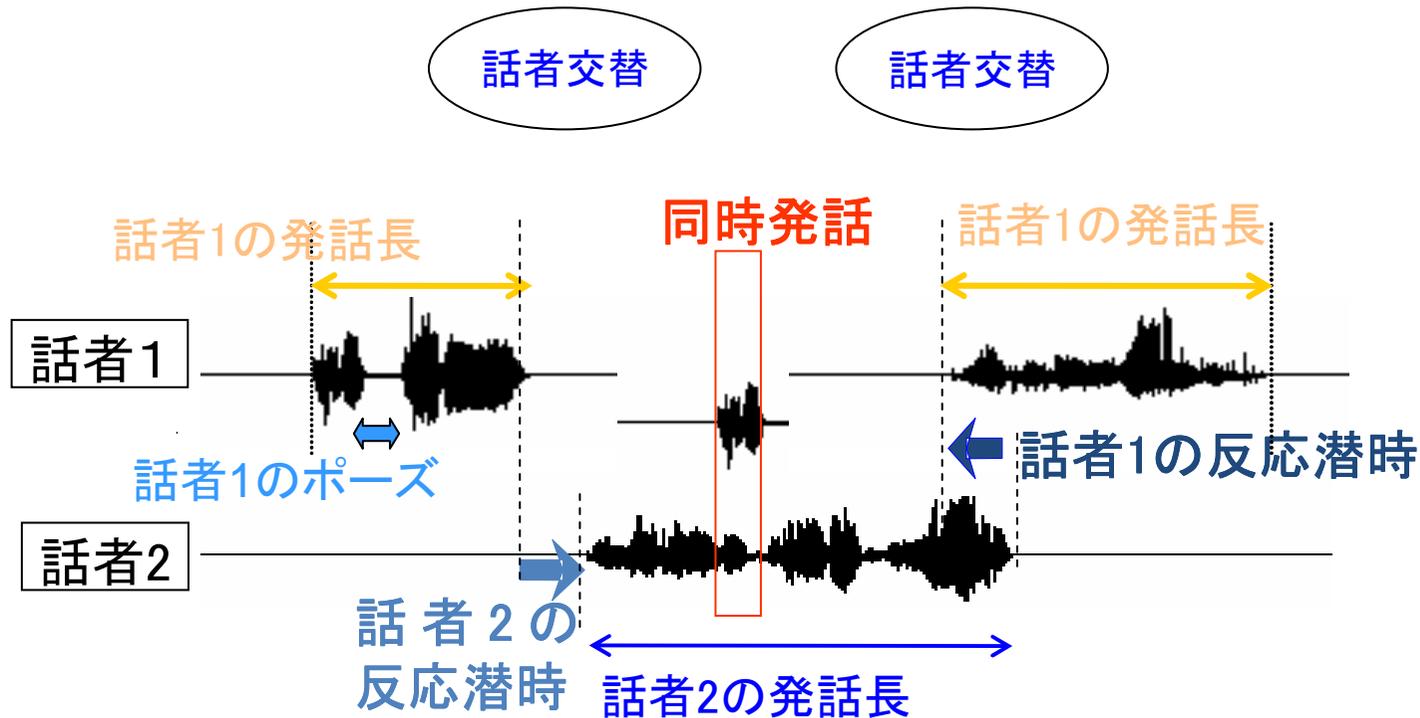
- 異なる研究領域をつなぐ
 カウンセリングと実証科学
 心理学と脳科学
- 社会と基礎研究をつなぐ
 「社会資本としての農業改良普及」
 「看護師－患者のコミュニケーション」
- 過去の知（伝統知）と現代をつなぐ
 ブータン学プロジェクト

カウンセリング対話の実証研究

臨床心理学＋認知科学



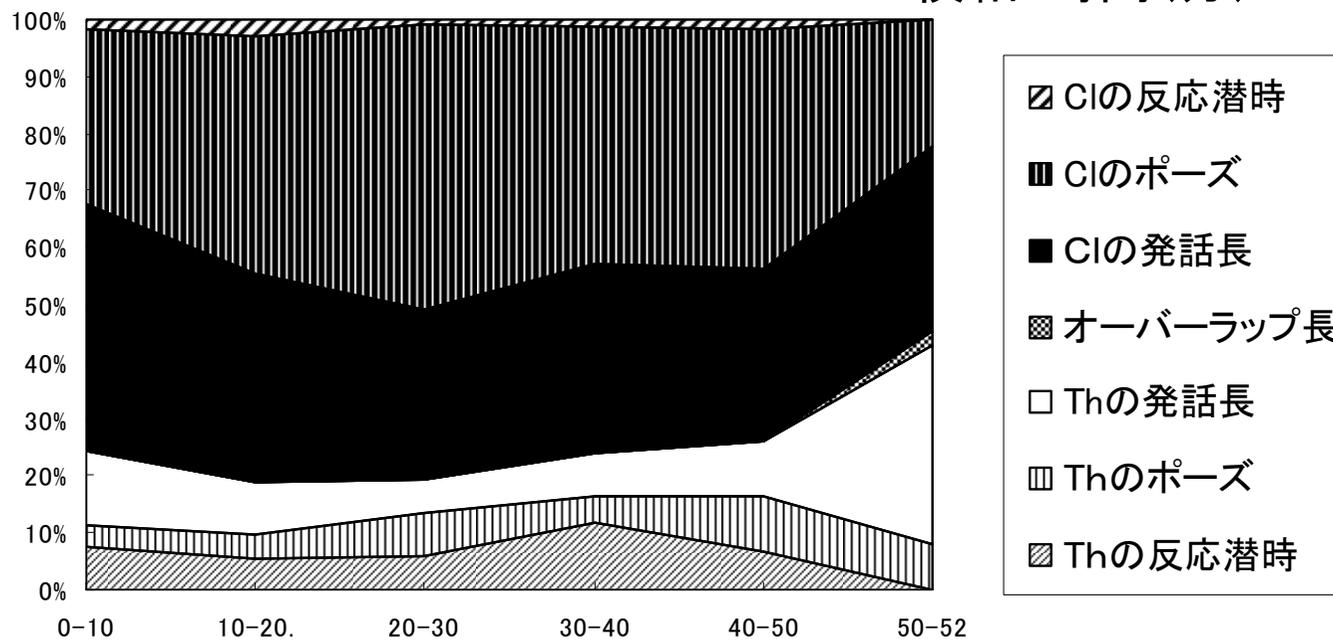
発話時間・沈黙時間の計測



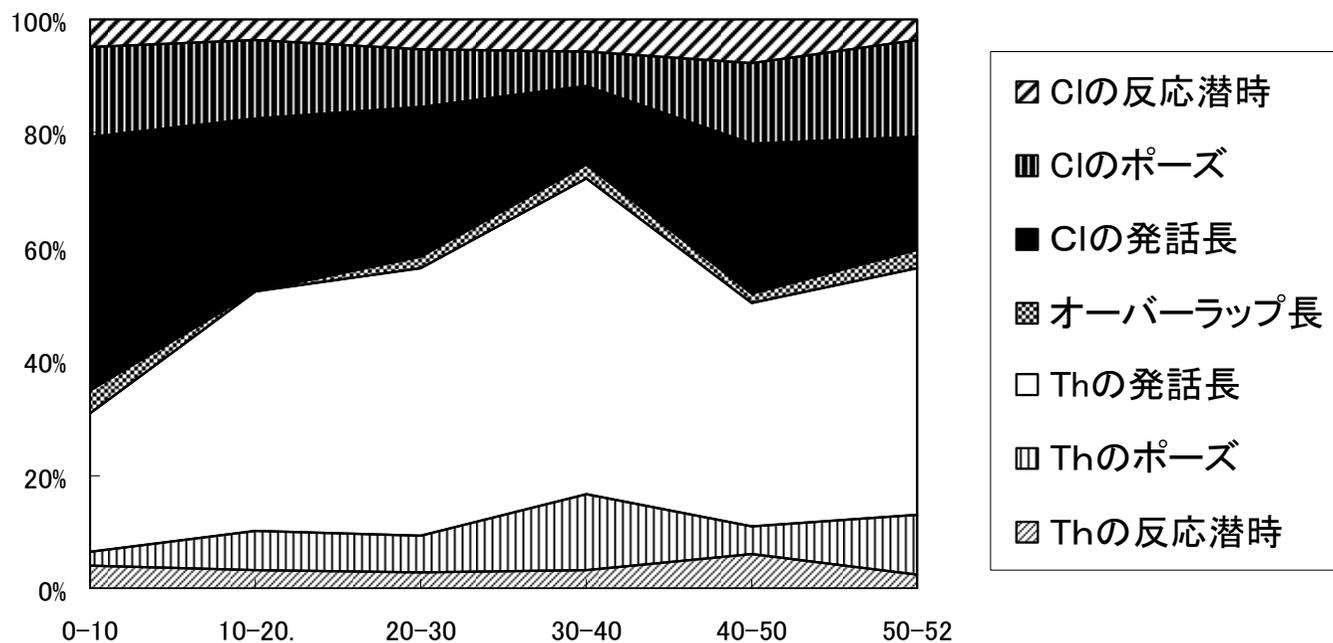
評定実験で用いた刺激(約30秒4箇所×2事例)内の音声进行分析した.

横軸：時間(分)

聴き手：専門家



聴き手：非専門家



身体動作の同調の分析

- ビデオ解析による定量化
- □ は解析領域

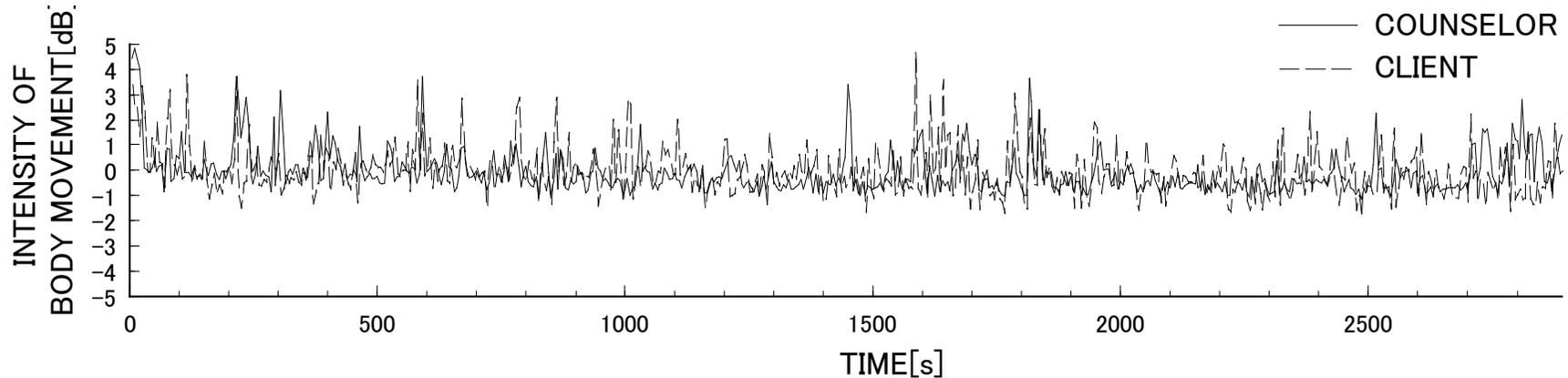
Region of
Analysis for
Counselor



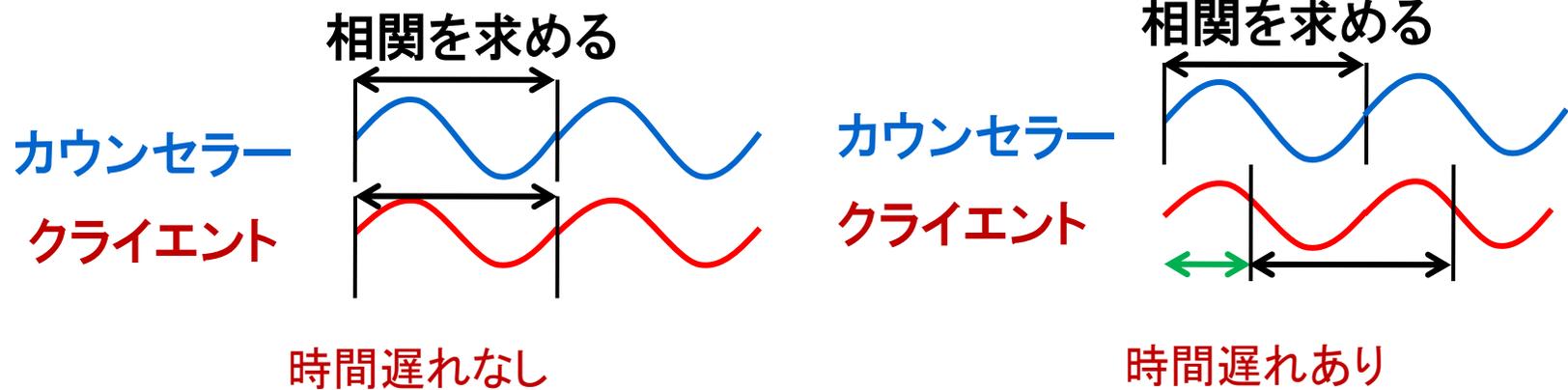
Region of
Analysis
for Client

ビデオ解析

各話者の身体動作の大きさの評価

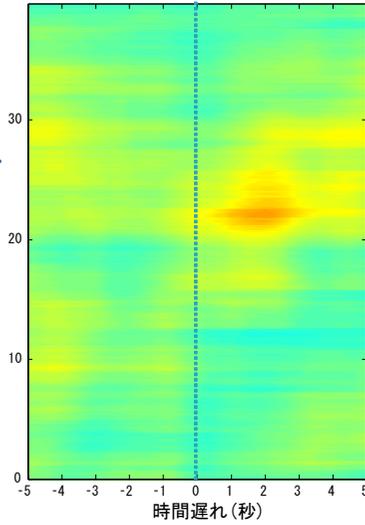


カウンセラーとクライアントの身体動作の大きさの変化の一例

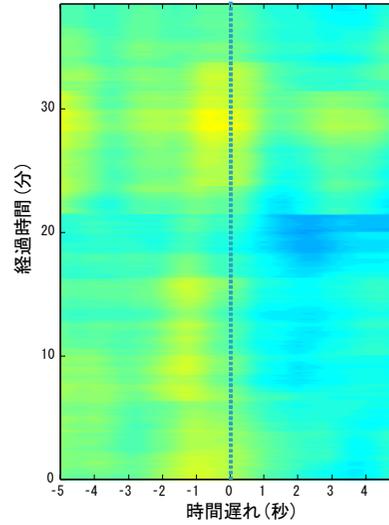


結果

低評価事例
時間経過

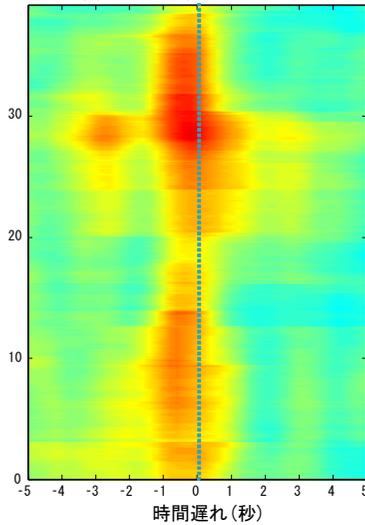


(a) 事例 1 (低評価事例)

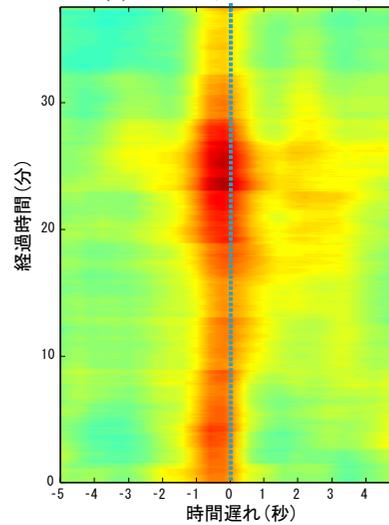


(b) 事例 2 (低評価事例)

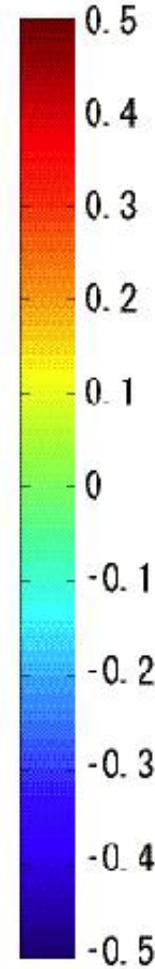
高評価事例
時間経過



(c) 事例 3 (高評価事例)



(d) 事例 4 (高評価事例)



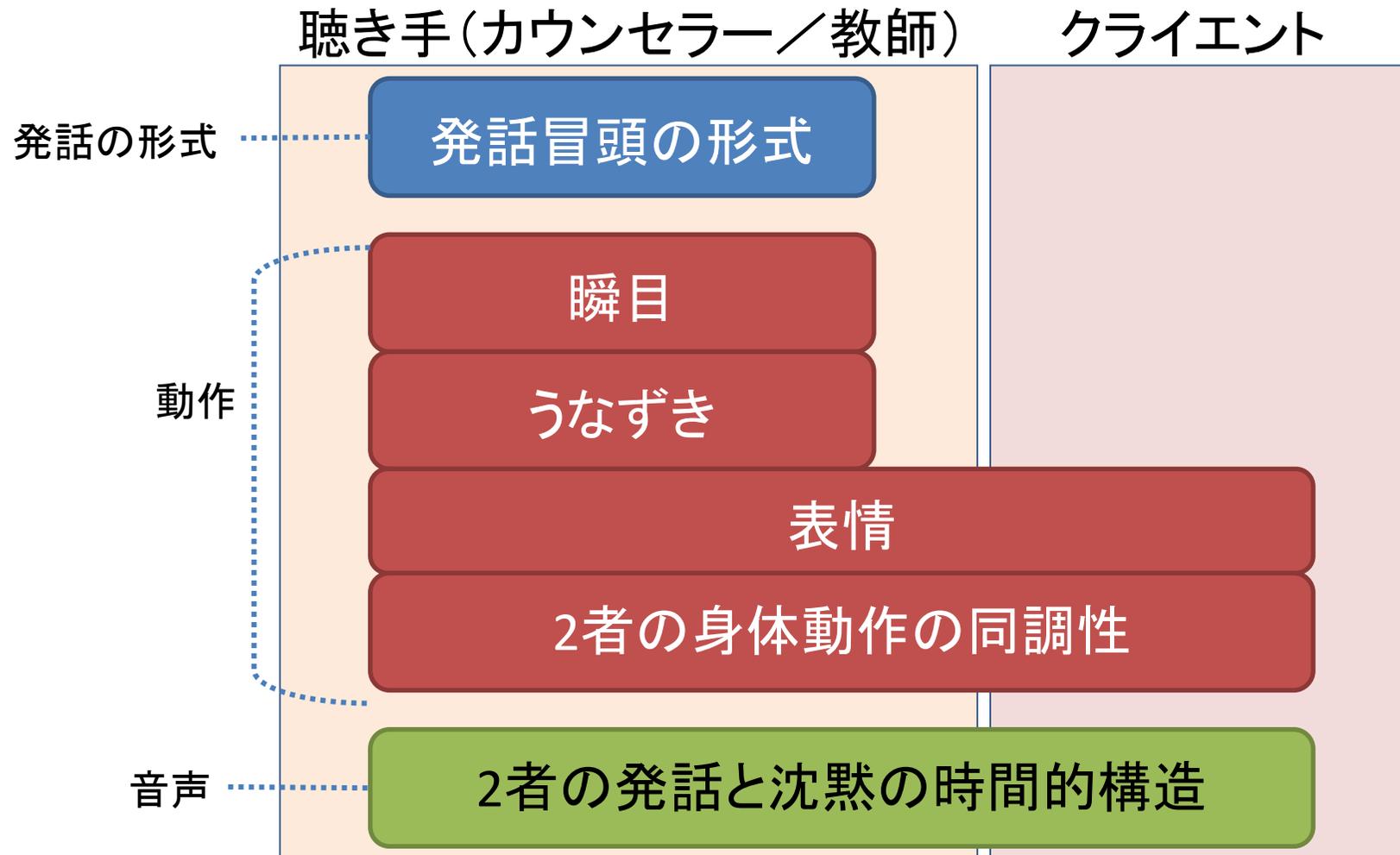
分かってきたこと

- 話し手の占有時間（発話長，ポーズ）の長さと言話内容の深化との間に関係がある。
- 高評価事例では，カウンセラーが，クライアントの動きに同調する。



質の高いカウンセリング対話の特徴を示す指標

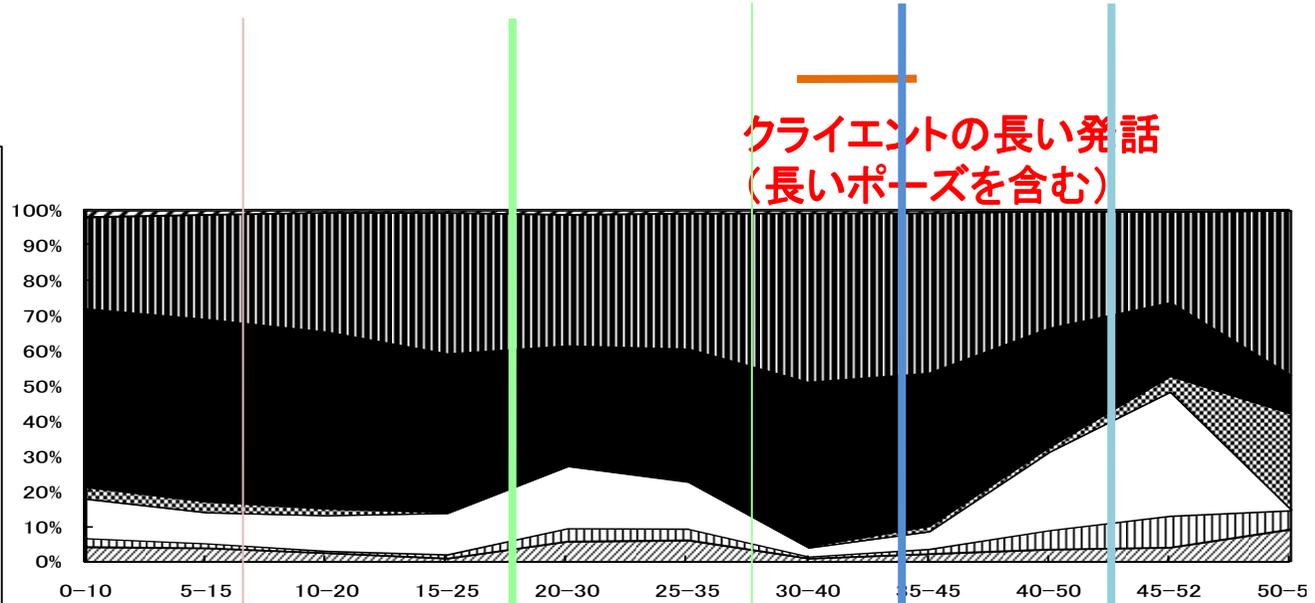
分析指標



カウンセリング A事例

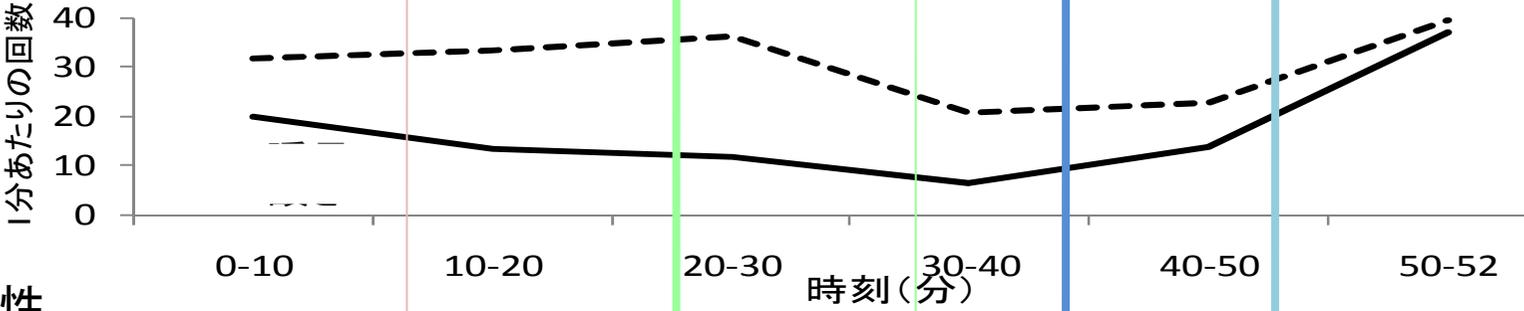
発話と沈黙の時間的構造

- ▣ CIの反応潜時
- ▣ CIのポーズ
- CIの発話長
- ▣ オーバーラップ長
- Thの発話長
- ▣ Thのポーズ
- ▣ Thの反応潜時

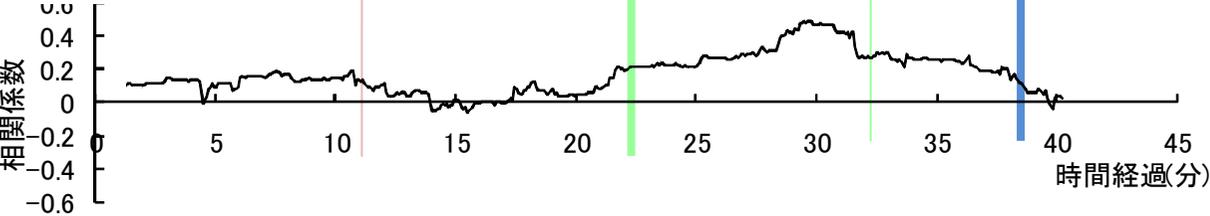


52

カウンセラーの 頷き・瞬目 →



身体動作の同調性 例えば第5分の値は、 5～15分における 平均的シンクロ率



専門家の聴き方

- 沈黙時間が長い
- 発話量が少ない
- 身体同調が生じる
- 対話開始後20分～25分で「深い対話」
-

⇒ カウンセラーにフィードバック

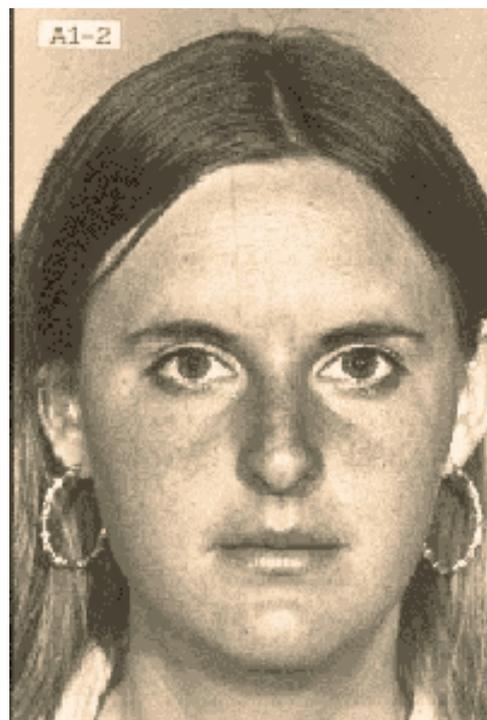
表情同調とミラーシステム

実験心理学と脳科学

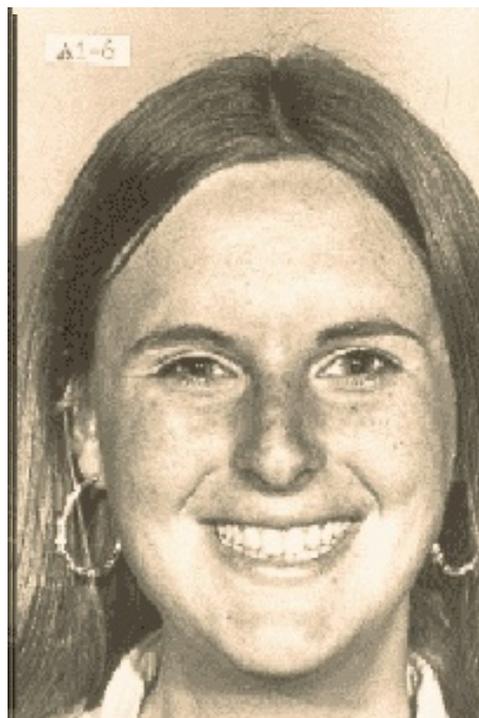


Figure 4.13 Modelled expression and infant's imitation (from Meltzoff and Moore, 1977). Copyright 1977 by the AAAS.

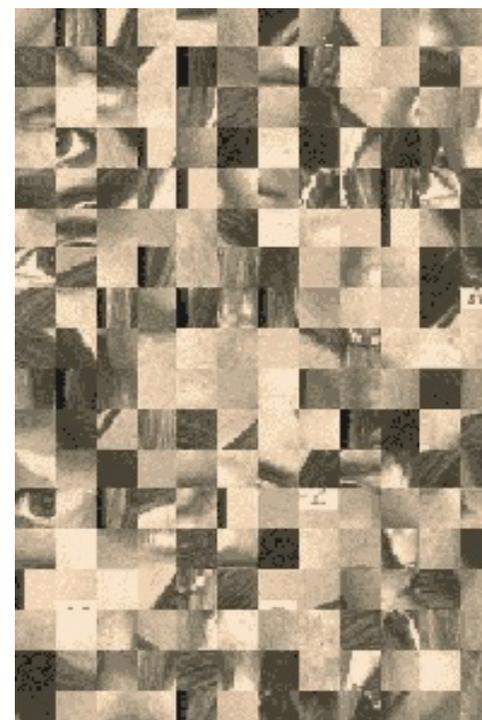




Dynamic

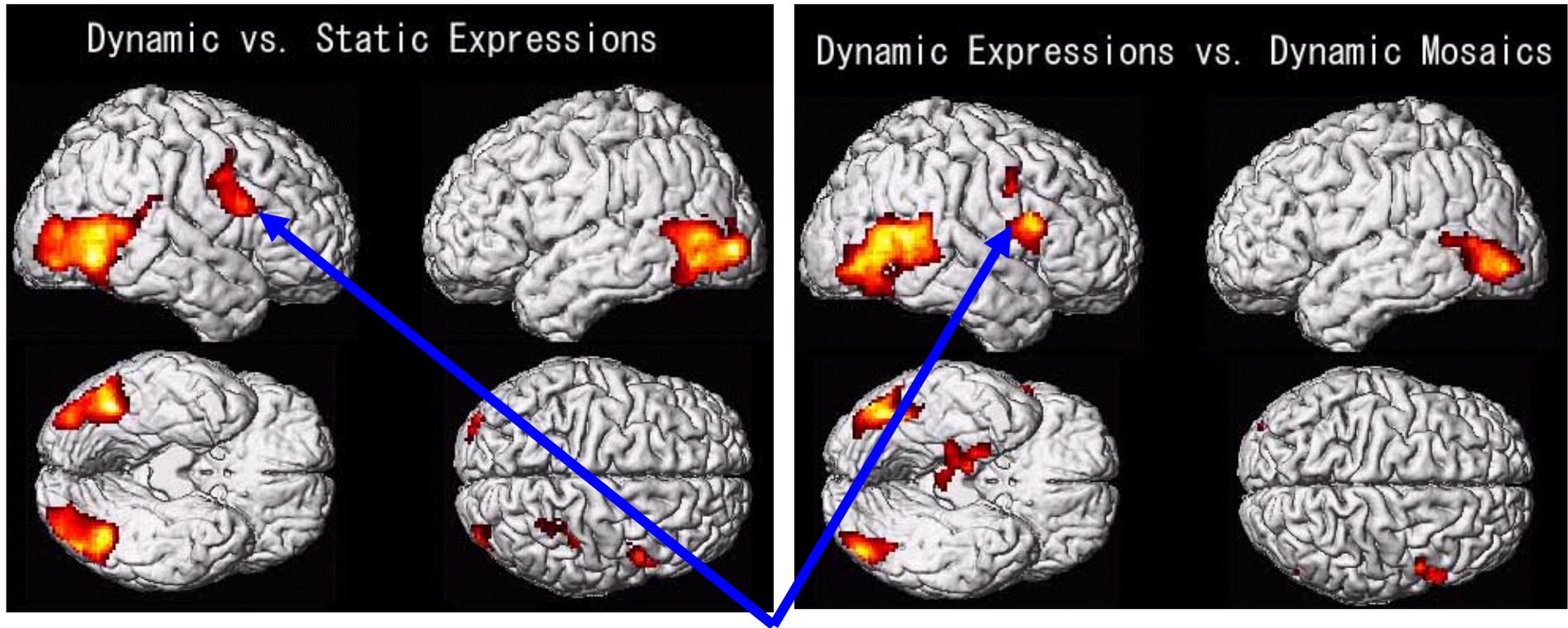


Static

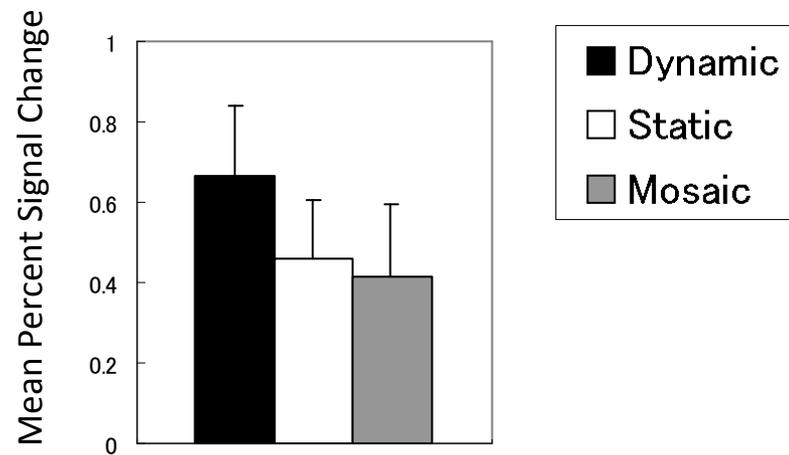


Mosaic

Fearful Expressions



Premotor Cortex



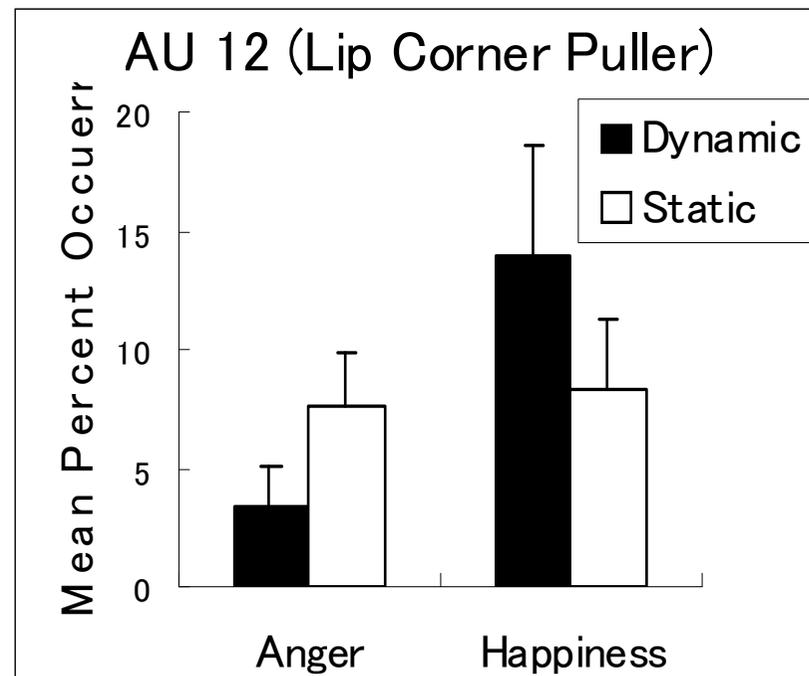
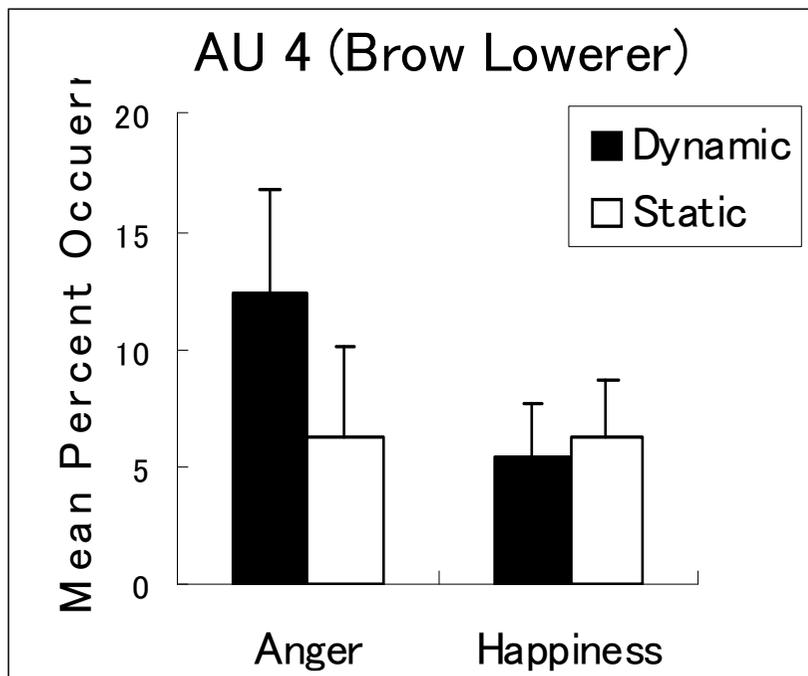
表情知覚時の表情表出

- 変化する表情を見ている人の表情には、どんな特徴がみられるのだろうか？

AU4 Brow Lowerer

AU12 Lip Corner Puller





- ・表情の動きによって、見ている人の表情も変化する。
- ・その表情変化は、見ている表情と類似する。



他者の感情を、自己の感情にシミュレートすることで理解する、共感システムの存在を示す現象。
2者間で生じる共感は、表情を介して、集団内の他のメンバーにも伝わる

作業療法における専門家の技法

あらまし

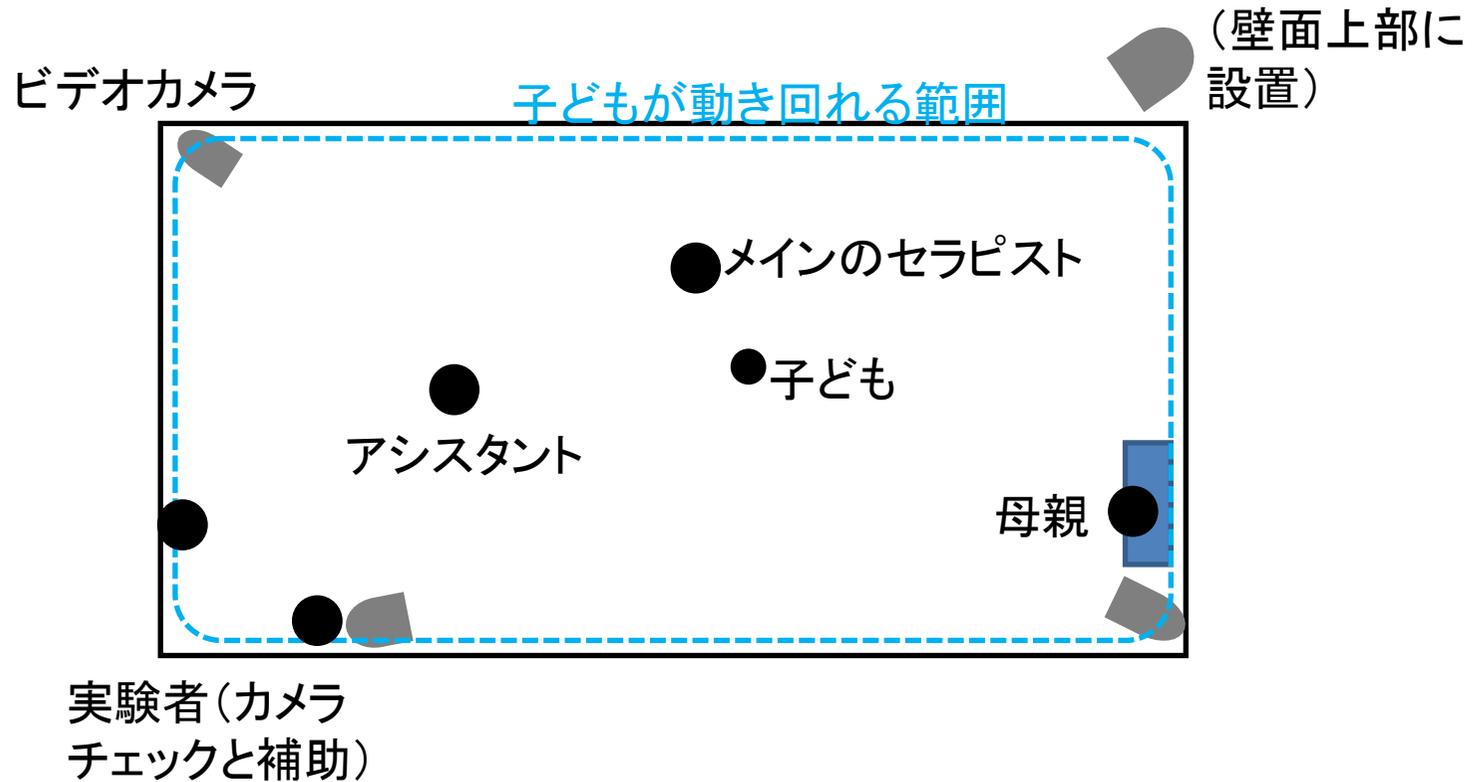
- 発達障害などを持つ子どもや青年への支援としての作業療法の分析
- 作業療法の質を表す客観的指標を見出し、作業療法の実践の特徴を明らかにする

方法:分析対象

- 実際の作業療法2事例からの抜粋

	クライアント	セラピスト	長さ
熟達者事例	A君 (男子中学生, 13歳. 自閉症 と診断されて いる)	約24年間の 施行経験を 持つ男性作 業療法士・ 49歳	15分(全体は60分) (開始から10分後の 長く続く活動)
非熟達者事例 (非熟達者の 一例として)		約3年間の 施行経験を 持つ女性作 業療法士・ 31歳	計11分(全体は27分) (熟達者事例と似た活動が3.3分 と, 5.0分、熟達者事例と同時間帯 の活動2.6分)

方法：作業療法の場面設定



9つのカテゴリー

セラピストの言葉の機能

- 誘導: 次の活動を提案する
- 計画要求: 子どもに次の活動を選択・判断させる
- 疑問: 子どもの意図を確かめる
- 実況: 継続中の動作と今後の動作を確認する
- 合図: 動作を行うタイミングを示す
- 感動表出: 子どもの動作に対する感情(感心、驚き、興奮など)を表す
- 省察要求: 完了した動作を確認する
- 雰囲気づくり: 子どもとの関係と活動中の雰囲気をよくする
- 感情共有: 子どもの気持ちを汲み取ろうとする

カテゴリーの具体例

- 誘導
- 計画要求
- 疑問
- 実況
- 合図
- 感動表出
- 省察要求
- 雰囲気づくり
- 感情共有

熟達者事例

(Cl. ブランコからロープに飛びつこうとして)

Th. はい、じゃ前向きでやる？

Cl. 自分ではできない。

(笑)自分ではできない？(笑)自分ではできな

Th. いて...□□先生もできへん(笑)。(ブランコを大きく揺らす) いーち、にいー...よしいけ！

Cl. どこに飛びつく？

Th. ここ、ここ、ここ(ロープを示しながら)。どれがいい？1番、2番、3番、何番がいい？

非熟達者事例

(Cl.トランポリンの上から跳び、袋の上のロープを持って中に潜り込む)

おわー。あー(笑)。大きく回していいですか？

Th. Aちゃん、これ回した方がいい？回した方がいい？(袋を回しながら)...聞ってる？もしもし？もしもし？

Cl. ああー...。

カテゴリーの具体例

- 誘導
- 計画要求
- 疑問
- 実況
- 合図
- 感動表出
- 省察要求
- 雰囲気づくり
- 感情共有

熟達者事例

(ロープへの飛び移りに失敗)

ぎょわ———！おいしい———！...ちよつと

Th. □□先生ができるかやっいていい？...え？
やっいていい？○○先生ができるかやっいて
いい？

(Cl.、またブランコの上に立つ)

え？...あ、やろうとしてます、その前にAが

Th. またやろうとしてます。...やっぱり後ろから
いく？がんばるね。

Cl. うん。

Th. (ブランコを揺らしながら)...いーち、にーい
...いけ！！

カテゴリーの具体例

- 誘導
- 計画要求
- 疑問
- 実況
- 合図
- 感動表出
- 省察要求
- 雰囲気づくり
- 感情共有

熟達者事例

(ロープへの飛び移りに失敗)

Th. おおお！おいしいー！...おいしいー！...今、なにが悪かったんやろな？

Cl. マットのところに足ついたので悪かった。

Th. な、足ついたな。

非熟達者事例

(Cl.、ブランコから袋に飛び移ろうとするが、やはり足が先に床についてしまう)

Th. あ、おいしいな——、Aちゃん！足が入ったらいけそうだったね。...速度はお任せします。

カテゴリーの具体例

- 誘導
- 計画要求
- 疑問
- 実況
- 合図
- 感動表出
- 省察要求
- 雰囲気づくり
- 感情共有

熟達者事例

(Cl.、ブランコに乗り、上体を反らしてはみ出させたまま揺らす)

Th. そんなイナ・バウアーしないで(笑)。はいはい(笑)。

Cl. (笑)(ブランコから落ちてまた乗り、起きあがりながら)

(空中ブランコに飛び移れず)

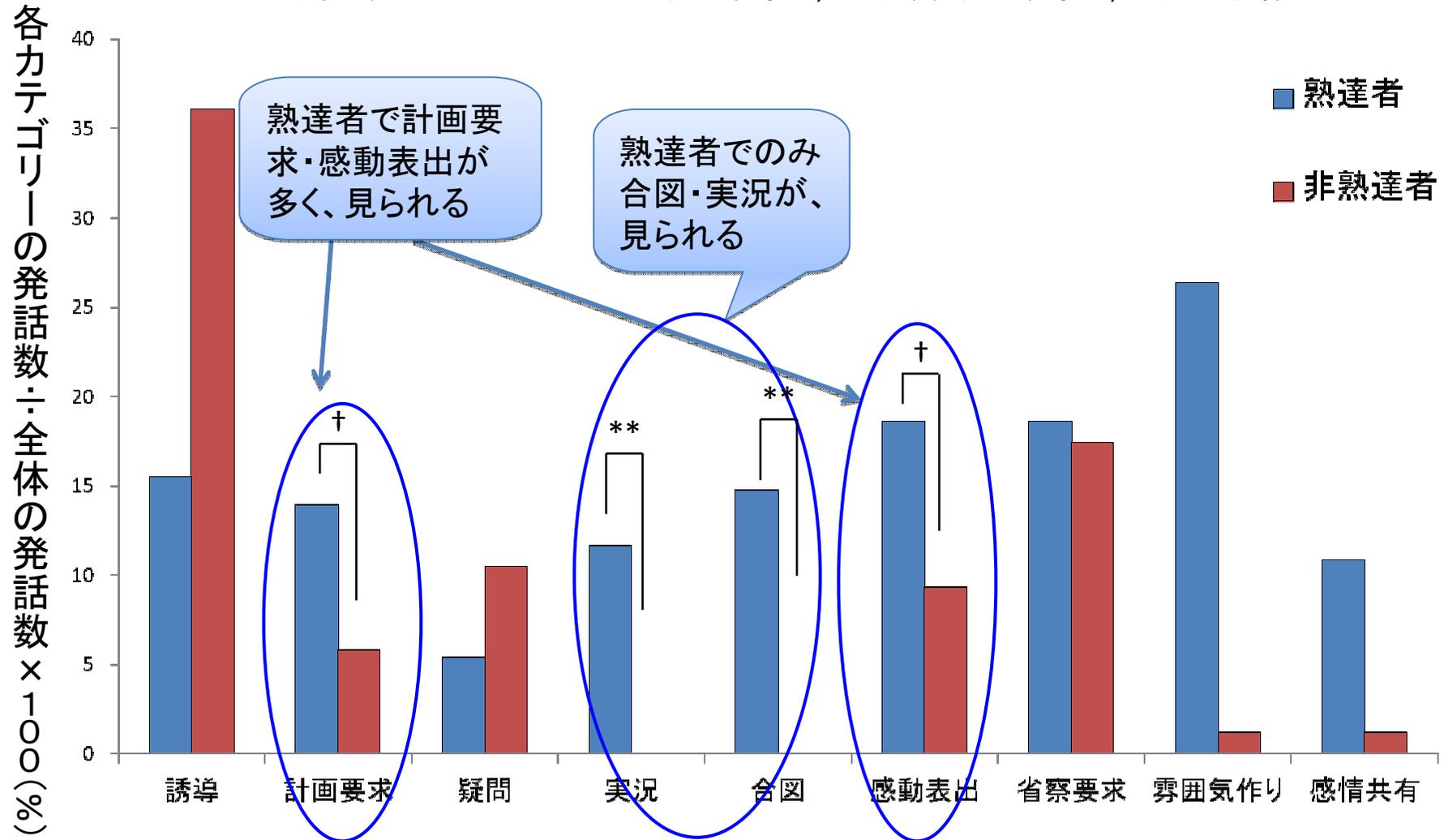
Th. おいしい~~~~!! おいしい~~~~! ...今、二つの手が触われましたね。

(Cl.、ブランコに並行に寝るように乗り、立ちあがろうとする)

Th. よし、も一回いこか! ...悔しいですね。

結果:各カテゴリーの生起率

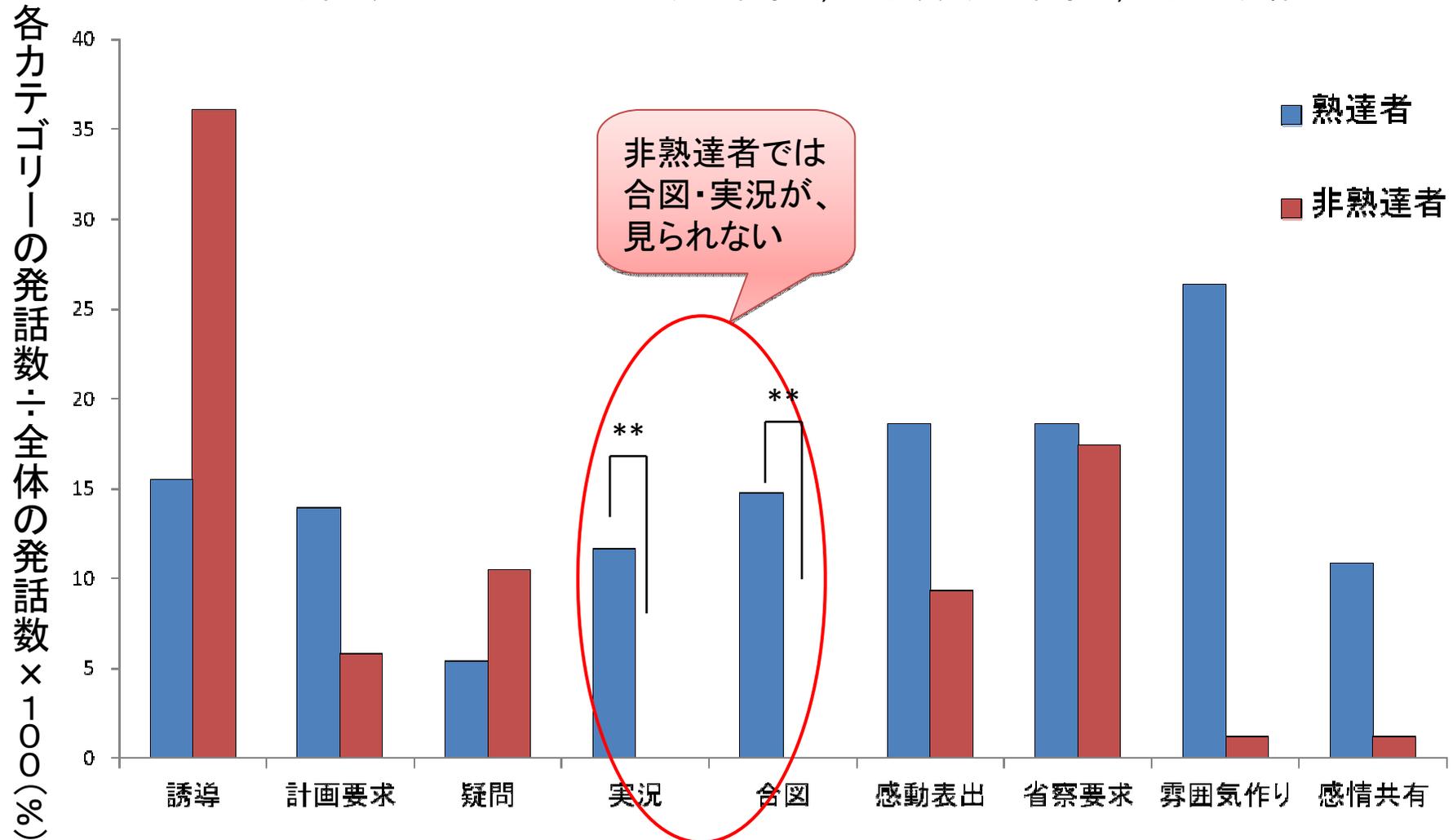
コーディング対象は、セラピストの計215個(熟達者事例, 129個; 非熟達者事例, 86個)の発話



** $p < .01$, † $p < .10$,

結果:各カテゴリーの生起率

コーディング対象は、セラピストの計215個(熟達者事例, 129個; 非熟達者事例, 86個)の発話

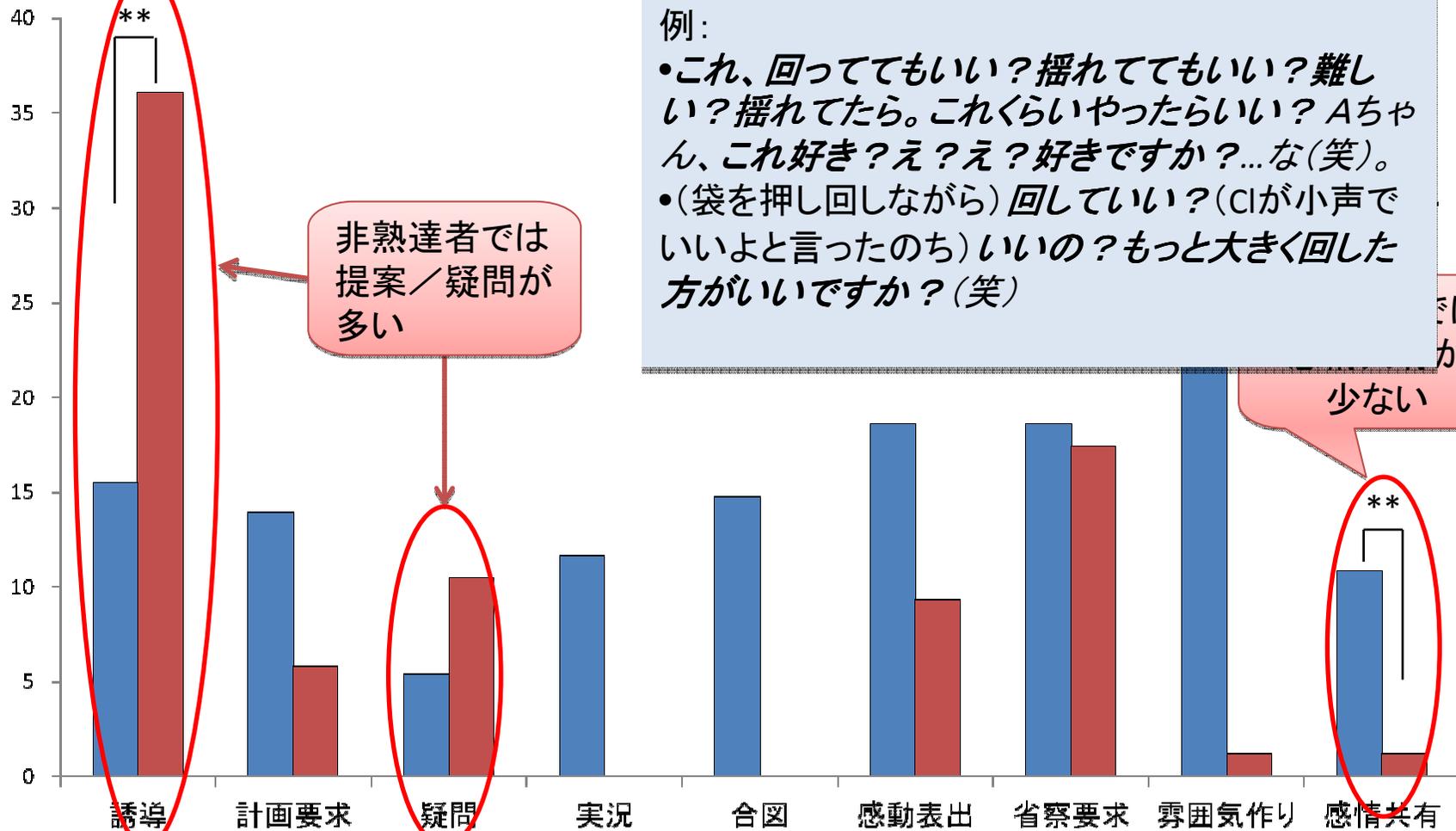


** $p < .01$, † $p < .10$,

結果:各カテゴリーの生起率

コーディング対象は, セラピストの計215個(熟達者事例, 129個; 非熟達者事例, 86個)の発話

各カテゴリーの発話数÷全体の発話数×100(%)



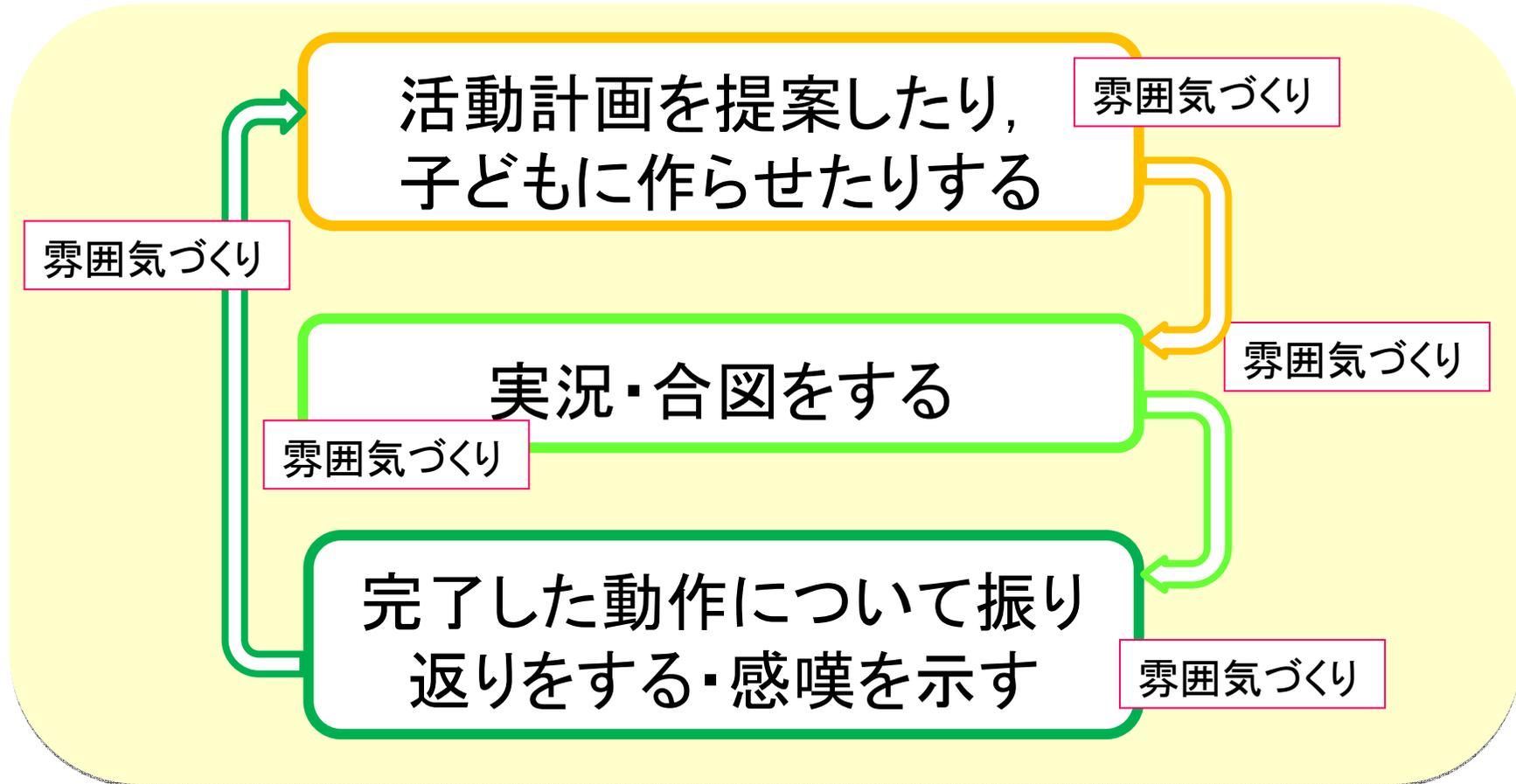
例:
 ・これ、回っててもいい? 揺れててもいい? 難しい? 揺れてたら。これくらいやったらいい? Aちゃん、これ好き? え? え? 好きですか?... な(笑)。
 ・(袋を押し回しながら) 回していい?(Cが小声でいいよと言ったのち) いいの? もっと大きく回した方がいいですか?(笑)

非熟達者では提案/疑問が多い

少ない

**p<.01,

発話から見た熟達者の作業療法



その場にいる全員が楽しめる雰囲気！

まとめ

- 作業療法は、単に運動技能を高めているのではない
 - メタ認知能力の向上, 他者との情動的関わりを経験の場である
- 熟達者は適切な言葉かけと, 子どもの関心に沿った活動計画の作成によってこれらを実現している
 - 実際の作業療法場面ばかりでなく, 定型発達児に対する教育場面にも応用可能である
 - 新島・平井・中山(2011)
 - 吉野・島貫(2012)

改めて、コミュニケーションを考える

- カウンセラーや作業療法士は、相談者や障害児の「心や身体の表現」を最適な状態で引き出す。
- 「快適」で「安心」でき、「落ち着いたやりとり」を可能にする要素：

沈黙 同調 模倣(反復) 共感・・・

- 人と人のコミュニケーションは、「有用な情報の効率的な伝達」ではない。

改めて、コミュニケーションを考える

これまでの研究を通して、気づいたこと

- 無意味にみえるもの（沈黙、同調、反復・・・）、省略可能にみえるものが、実はとても大切。
- 「対面すること、身体を介したやりとり」「さまざまな個性をもつ他者とのやりとり」が、コミュニケーション力を育む。



基礎研究を専門家の教育に生かす